



頭蓋変形外来について

頭蓋変形外来では、脳神経外科との連携のもと、病的変形の鑑別や、頭のゆがみ具合の測定を行っています。体位によるゆがみの場合は、ヘルメットによる頭蓋形状誘導療法での治療が適応になることがあります。

☆診療日：隔週 火曜日 午前： 小張総合クリニック 2階

※毎月外来日が変わりますので、受診希望のかたは、小児科外来にお問い合わせください。

☎ 04-7124-6666 (代表)



赤ちゃんの頭の形について



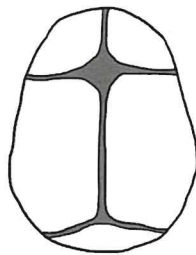
頭のゆがみの原因には、頭蓋骨早期癒合症のような病的変形と、体位や向き癖などの外的要因による位置的頭蓋変形症があります。



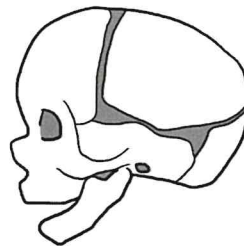
頭蓋骨縫合早期癒合症とは

人の頭蓋骨はいくつかの骨に分かれており、それぞれの骨のつなぎ目を頭蓋縫合といいます。乳児期は頭蓋縫合が完全に閉じてはおらず、脳の急速な成長に合わせて頭蓋骨も成長できるようになっており、成人になるまでに頭蓋縫合が固く癒合していきます。

頭蓋骨縫合早期癒合症では、頭蓋縫合の一部もしくは複数が早期に癒合し、頭の成長が妨げられてしまう病気です。放置すると頭の変形だけでなく、脳の正常な発達が障害される可能性があるため、手術が必要となります。



頭蓋骨(上から見た図)



頭蓋骨(横から見た図)



位置的頭蓋変形症とは

赤ちゃんの頭はやわらかいため、外の環境により頭の形が変わってしまうことがあります。位置的頭蓋変形症とは、子宮内での体勢や出生後の向き癖などにより、頭の形が変形した状態のことです。頭が左右非対称となる斜頭症、いわゆる「絶壁」と言われる短頭症、頭の前後径が長くなる長頭症などに分けられます。基本的には脳の成長や発達には影響を与えないとされてきましたが、視力の異常や顎関節症、咬合不正など、諸種の合併症に関連するのではないかとの報告もみられています。



斜頭症



短頭症



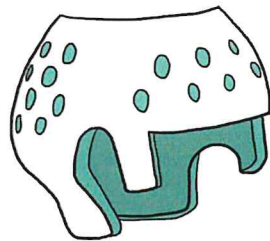
長頭症



ヘルメット治療

ヘルメット治療は、一定期間のヘルメット装着により頭蓋形状を正常に再形成するための矯正治療方法です。アメリカではすでによく知られた治療として浸透していますが、日本ではまだ馴染みの薄い治療です。2011年から国立成育医療研究センターで米国製の医療機器を使用したヘルメット療法が開始され、徐々に治療を行う方も増えてきました。

まだ頭のやわらかい生後3~6か月からの開始が推奨されます。ヘルメット治療は自由診療であり、必ず受けなければいけない治療ではありませんが、頭の形が気になる方はお気軽にご相談ください。



☆ヘルメット治療を受けられる場合は、自費診療になりますので、

受診の上ご相談ください。